



〒030-0180
青森市第二問屋町3丁目1番89号
東奥日報社
電話 017-739-1111
©東奥日報社 2008

2013年(平成25年)9月1日(日曜日)

「尾駁の駒」道長日記で検証

8日、六ヶ所で
歴史フォーラム

六ヶ所村が平安時代の名馬「尾駁の駒」の産地だったとする説の研究を進めている「尾駁の牧」歴史研究会相内知昭会長は8日、

村文化交流プラザ・スワンニーで、本年度の歴史フォーラムを開く。国際日本文化研究センター(京都府)の倉本一宏教授らが講師を務める。尾駁の駒が京都市の上加茂神社(加茂別雷神社)に伝わる「競馬(くらべうま)」で活躍していたとする見解を、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の記憶遺産に登録されている藤原道長の直筆日記「御堂関白記」な

2013年(平成25年)9月20日(金曜日)

六ヶ所

名馬「尾駁の駒」
140人が背景探る

歴史フォーラム

六ヶ所村が平安時代の名馬「尾駁の駒」の産地だったとする説の研究を進めている「尾駁の牧」歴史研究会相内知昭会長はこのほど、村文化交流プラザ・スワンニーで、本年度

どから検証する。「古記録の世界と尾駁の駒」撰関期における馬と帯の持つ意味」と題したパネルディスカッションでは、相内会長と倉本教授、国際日本文化研究センターの飯沼清子講師が、御堂関白記などに記載されている馬の交易の部分から、尾駁の駒の背景を探る。参加無料だが、事前の申し込みが必要。問い合わせは相内会長(携帯電話090・3752・0935)へ。(永野悠太)



尾駁の駒の背景について言及する倉本教授

の歴史フォーラムを開く。藤原道長の直筆日記「御堂関白記」な

の歴史フォーラムを基に、尾駁の駒の背景を探った。国際日本文化研究センター(京都府)の倉本一宏教授らが講師を務め、村内外の教育関係者ら約140人が参加した。御堂関白記は国連教育科学文化機関(ユネスコ)の記憶遺産に登録されている古記録。「土御門第(つちみかど)てい、道長の屋敷」の馬場において陸奥交易の御馬を見た」など、平安時代に本県と京都

で馬の交易があった可能性を示唆する記述がある。倉本教授は御堂関白記の記述を紹介。同村が名馬の産地「尾駁の牧」だったとする説について「ゼロではないが百パーセントでもない」との見解を述べ「宮城県石巻市を尾駁の牧とする説もあり、分からない」とした。(永野悠太)